

## 令和元年度第6回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和2年3月4日（水曜） 19：00～21：00

場 所：TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：広岡守穂委員、木本喜美子委員、安藤慎次委員、飯島明美委員、神子島健委員、  
神山直子委員、堤香苗委員、真野文恵委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：なし

事務局：山本課長、西担当主査、吉田

傍聴者：1名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

### 1 開 会

### 2 報 告

#### （1）令和元年度第5回男女平等参画推進審議会要点録（案）について

◇令和元年度第5回要点録（案）について修正等があればこの場でご意見を頂くか、  
3月12日（木曜）までに事務局にご連絡を頂きたい。

○項目「問9 ワーク・ライフ・バランス実現のための重要施策」にある「問いて」  
は「問うて」の方が良いのではないか。

◇修正をし、改めてメールで確認する。

#### （2）「多摩市民意識及び実態調査」の結果について

◇資料20～22に基づき、事務局から説明。

### 3 議 題

#### （1）「多摩市民意識及び実態調査」の結果を踏まえた分析について

◇「（2）『多摩市民意識及び実態調査』の結果について」ご意見をいただきたい。

#### 全体として

◎最近の都市部での調査は回収率が20%台のものもあるが、多摩市の場合は、回収率が4割を超えたことはより効果的な分析が可能になると考える。

### 項目「男女平等・男女共同参画に関する知識」について

- ◎「問3 女性が職業を持つことについて」について、内閣府が昨年9月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」では「子どもができて、ずっと職業を続ける方が良い」と回答した人は61.0%いるが、今回の市の調査では45.1%にとどまった。「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がいい」の回答が28.3%と一定数集まっていることについては、郊外のベッドタウンの傾向が出ていると思われる。
- 多摩市が国と異なる要因について述べれば、この世論調査との比較をしても良いのではないか。

### 項目「日頃の生活について」

- 「問10 夫婦の役割分担」について、重要事項の決定は夫の役割となっているが、それ以外はほぼ妻である。この結果をみると「問12 子どもにどう育ててほしいか」の結果とはズレがあるようにも感じる。問10の結果を見ると、問12での回答のように子どもが育つかは疑問が生じる。
- 夫の役割は少ないながらも年々増加していることに注目すべきである。

### 項目「暴力（DVなど）について」

- 「問14 暴力を受けた経験」について、各項目で「何度もあった」と回答した人が多いと感じた。この回答者が暴力を受けた後、相談したか等を分析してみてもどうか。
- 前回の2015年の調査結果と比較して、各項目で「無回答」の人が減った。このことは、市民の認識が、DVについて「恥ずかしいことなどではなく、答えていいものなのだ」という認識に変わったからなのではないか。
- 暴力を受けた経験について、「あった」と回答した人は、前回の調査と比較して減っている。このような変化も注意深く分析するべきである。
- 「問14付問2 相談しなかった理由」について、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した人が減り、「相談する人がいなかったから」や「自分にも悪い所があると思ったから」と回答した人が増えた。

### 項目「仕事・職場について」

- 昇進したい・昇進したくない理由は何とつながるか、分析すべきである。
- フルタイムを望まないために非正規である人が10ポイント増えている。高齢者等、回答者の性質もあるのではないか。
- 若い女性はわずかながら昇進の意向がある。昇進の意向と結婚の有無、ワーク・ライフ・バランスの観点でクロスしてはどうか。
- 仕事上の悩みで女性は「賃金・諸手当が少ない」を選んだ人が多い。年代・性別ごとにより分析が必要なのではないか。

#### 項目「性の多様性について」

- 同性婚に対する考えなど、世代間で異なっている。特に20～30代の若い世代では、理解が広がっていることがうかがえる。

#### 項目「男女平等・男女共同参画を進める市の施策について」

- TAMA女性センターの認知度は減少傾向にある。認知度向上のため相談事例の紹介等の更なるPRが必要である。認知度が向上すれば、助けられる人も増えるのではないかと。
- TAMA女性センターの名称変更について意見が割れている。何か募集してもいいのではないかと。

#### 4 その他

- ◎第7回審議会は令和2年3月24日（火）に実施する。